

脳卒中者の再学習を促進する心象：無作為対照化試験

石間伏 彩

横浜市立脳血管医療センター

目的：脳卒中者が再学習を行うために心象(mental imagery)を利用し、その効果を検証することである。

対象：入院リハビリテーションを施行している 60 歳以上の脳卒中初発患者 46 名で、発症前の ADL(日常生活活動)は自立していた。

方法：理学療法で心象を利用する群(心象群)26 名と機能改善を目的とした練習のみ施行する群(機能練習群)20 名を無作為に分類した。両群に ADL に対する練習を 1 日 1 時間、週 5 回の頻度で 3 週間施行した。ADL 課題は各週 5 項目、3 週間で計 15 項目である。また、評価のみの課題を 5 項目用意した。週を重ねるごとに難易度は上がり、評価のみの課題は 3 週目と同一レベルである。心象群のプロトコールは、1 週目は画像や映像を用い課題の順序を確認し、2 週目は課題遂行に必要な問題点を明らかにし心象を用いて修正する。3 週目は心象に加え実際に課題動作を行い、修正しながら訓練を行う。機能練習群は実際に課題動作を行い、個々の問題点に対しセラピストが修正を加える。両群ともに各週で行われる課題の練習前後に自立度を 7 段階で評価する。また、終了時と終了 1 か月後には評価のみの課題の自立度も評価した。精神機能と運動機能は Color Trials Test(CTT)と Fuji-Meyer Assessment(FMA)を使用し評価した。各練習前後の ADL 自立度変化は ANOVA、終了時と終了 1 か月後の ADL 変化は ANCOVA、CTT・FMA の変化は MANOVA を使用した。

結果：ADL 自立度は、2・3 週目の練習前後、終了時と終了 1 か月後のいずれにおいても、心象群が機能練習群より有意に向上していた。また CTT・FMA に有意差は見られなかった。

考察：脳卒中急性期の理学療法では、心象の利用により ADL 課題の再学習を促進する。これは、心象の過程で動作のプランニングと遂行能力を向上させる効果があるからと考えられる。

Liu K, et al : Mental imagery for promoting relearning for people after stroke : a randomized controlled trial. Arch Phys Med Rehabil **85** : 1403-1408, 2004

変形性膝関節症のある女性の運動機能に関する病理学、疼痛、バランスおよび自己評価の影響について

堤 美恵

横浜市立脳血管医療センター

目的：変形性膝関節症(OA)を有する者の機能障害の決定要素は生理学的側面と心理的側面の要素がある。しかし両側面から検討した研究は限定されているのが現状である。本研究の目的は OA のある女性群において運動能力と様々な項目との関係について比較、検討することである。

対象：OA を有する 50 人の女性(平均 69.2±8.8 歳)で精神機能面に問題がなく、歩行補助具の有無に関わらず歩行が可能で他の合併疾患がない者とした。

方法：病理学的な評価は X 線画像を使用し、疼痛と動作困難度の自己評価は The Western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index(WOMAC)、バランス能力評価は Functional Reach Test、疼痛のコントロールと身体機能の自己評価は The Arthritis Self-Efficacy Scale を使用して数量化した。また運動能力は、歩行、階段昇降、立ち上がりの 3 項目の動作時間を測定して数量化した。測定結果はスピアマン順位相関係数およびピアソンの相関係数、変数選択-重回帰分析を使用して分析した。

結果：運動能力との間に相関がみられた年齢、バランス能力、身体機能の自己評価、動作困難度の自己評価の 4 項目において分析したところ、運動能力に対しバランス能力と身体機能の自己評価の 2 項目が 42% 程影響していた。一方、動作困難度の自己評価との間に相関がみられた運動能力、疼痛、バランス能力、身体機能の自己評価、疼痛のコントロールの 5 項目において分析したところ、動作困難度の自己評価に対し疼痛と身体機能の自己評価の 2 項目が 74% 程影響していた。

考察と結果：OA を有する者にとって、身体機能の自己評価が実際の運動能力に影響する重要な要素の一つであることが示唆された。セラピストは機能障害だけでなく、心理的側面となる自己評価に対しても援助していく必要があることが示唆された。

Harrison AL : The influence of pathology, pain, balance, and self-efficacy on function in women with osteoarthritis of the knee. Phys Ther **84** : 822-831, 2004